

令和5年度 第4回 金指小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年2月16日（木）15時00分から16時58分まで
- 2 開催場所 金指小学校 さかみちホール
- 3 出席委員 宮澤 勝實、青嶋 伸介、野沢 英年、内山 康子、巨島 信慶
菊地 幸江、飯田 博乃、黒瀬 憲太郎
- 4 欠席委員 なし
- 5 傍聴者 なし
- 6 学 校 山村 健一（校長）、縣 倫子（教頭）
柳田 葉子（CS担当教員、入手 佑香（CSディレクター）
- 7 会議録作成者 入手 佑香（CSディレクター）
- 8 会議記録

司会の教頭から、委員総数8人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

9 議長の選出

司会から、議長の選出について宮澤委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

（1）令和5年度学校関係者評価について

議長の指示により、教務主任から、別紙資料に基づき学校評価アンケートについての結果と考察について説明があった。課題として、苦手なことや難しいことがあるとすぐに誰かに助けを求めたり、諦めてしまう傾向がある。また、保護者アンケートの結果では、「生活リズムを整えるように気を付けている。」の項目の評価が低かった。その結果を踏まえて具体的な改善方策の説明があり、委員から、以下の発言があった。

- ・ 朝運動や体育の授業の中で振り返りカードの活用とあるが、どこかに掲示してあるのか。（宮澤委員）
- ・ 振り返りカードは体育の授業で使用している。来年度は振り返りカードの内容を工夫して、色を塗ったり頑張った結果が形として表れるようなカードにしたい。（教務）
- ・ 子供たちは自分が努力した結果が成果に繋がり、努力をしたことが目に見える形で分かると、よりモチベーションが向上すると思う。（宮澤委員）
- ・ 運動が苦手な子供もいるので、自分の長所を見つけるには個々で目標を設定したほうがよいと思う。（黒瀬委員）
- ・ 体力向上と持久力を高めるために1年を通して週2回の朝運動の時間を使い縄跳びを実施していく。（教頭）
- ・ 低学年の体育の授業で取り組んでいる縄跳びでは、子供たちが前回の回数より

- も多い回数を跳べるように目標設定して頑張っている。また、目標達成した友達には「すごいね。」と言葉をかけることができる優しい子供たちが多い。(教務)
- ・ 体育的な面では、他者と比べるのではなく、今までの自分に挑戦してみることや自分が発揮できる最大の力を更新してレベルアップしていけることを学校の方針として考えている。(校長)
 - ・ すぐに諦めたり、答えを聞いてくる傾向がある。授業改善も必要だが、失敗を繰り返して答えにたどり着いたときに「考えることは楽しい。」と思えるように意識していきたい。(校長)
 - ・ マラソン記録会では、自分の記録を更新することに挑むことができるよう本番と同じ距離を練習から繰り返し走る。(黒瀬委員)
 - ・ 学校以外での運動不足解消や規則正しい生活するためには家庭との連携が必要になる。(宮澤委員)
 - ・ 外で遊ぶ子供が少なくなった。(黒瀬委員)
 - ・ SNSやオンラインゲームを介して友達同士が繋がり、ある程度の時間に終わることができず、夜更かしが原因で朝起きることができなかつたり、それが原因で体調不良になったりすることを心配している。来年度は外部講師を招き、子供たちだけでなく保護者の方にも一緒に話を聞いてもらう機会を設けたい。家庭内でもSNSとの付き合い方などについて見直すきっかけになるとよい。(校長)
 - ・ 年3回メディアと上手に付き合いおう週間を実施している。メディアコントロールできる機会を設けて、ネットやゲーム、テレビ等に費やす時間を読書などに充てるような取り組みをしている。アンケート結果から保護者の方もゲームの使用時間や生活リズムの乱れなどに戸惑いを感じている。家庭と連携して対応していきたい。(教務)

(2) 令和5年度いじめ防止基本方針に係る学校評価について

教頭から、いじめの防止等のための対策アンケート結果の分析と考察の説明があった。課題としては、速やかに会議を開催することが難しかったこと、対応後の検証、計画の見直しの動きが遅かった結果を踏まえて今後の改善方策について説明があり、委員から、以下の発言があった。

- ・ いじめの発生状況はどうか。(青嶋委員)
- ・ けんかやふざけ合いであっても被害を受けている子どもが“いじめられている”と感じたら“いじめ”であると理解して対応している。(教頭)
- ・ 昔はいじめがあっても止めに入る仲裁者がいた。今は時代の流れで関わらないようにしている傾向があるのか。(青嶋委員)
- ・ いじめは外からは見えにくい。言葉一つでも個々の捉え方が違うため言葉への対応が難しい。故意に傷つけようと思ってなくても、本人が苦痛に感じた場合にはいじめになってしまう。対応について、速やかに対応できていないのか。
(内山委員)
- ・ 問題が生じた際には、迅速に連絡・報告を密にしていじめの発生等についてきめ細かな状況把握を行い、適切な対応を求められる。(教頭)

- ・ 先生方は、限られた時間の中で複数の業務を抱えている。精一杯やっている中で、より良いものにしてもらいたい。(内山委員)
- ・ 教職員の中でも、物事の受け取り方が人によって違いがある。来年度は密接な情報交換により共通認識を図っていく。(教頭)
- ・ 個人のスマホを持っている子供の割合はどのくらいなのか。(野沢委員)
- ・ 約6割の子供は持っているのではないか。(教務主任)
- ・ 家庭の中で使用しているタブレットではLINEをしている。(飯田委員)
- ・ スクリーンタイムで利用制限を設定している。(菊地委員)
- ・ 中学に進学すると個人のスマホを持つようになると思う。スマホを持つ時のルールは家庭によって違うが「わが家のスマホルール」が非常に大切になるので家庭で話し合った方がいいと思う。(飯田委員)
- ・ SNSとの付き合い方について、外部講師を招いた講話は年1回に限らず毎年実施してほしい。(飯田委員)

(3) 令和6年度学校運営の基本方針について

議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき令和6年度の学校運営基本方針について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ 学校での学習に限らず地域との連携の中で毎年、各学年一度は実相寺で座禅体験や講話をしていただいている。(校長)
- ・ YouTubeにはメリットとデメリットがある。依存することの危険性を伝える動画はぜひ見せてほしい。正しく使用すれば、子どもの好奇心を満たし大きな「学び」に変えることができる。(巨島委員)
- ・ 小規模校の良さを生かしたかなさし発見ポイントウォークは、教職員と地域の人と声を掛け合い、行事に携わり、保護者や地域住民が学校行事に積極的に参加してくれる。(巨島委員)
- ・ かなさし発見ポイントウォークでは、子供たちが地域に関する学習を真剣に行い楽しんでいるという思いを感じた。地域との関わりから「ふるさと金指に誇りを持ち、金指を愛する人」になってくれると嬉しい。(青嶋委員)
- ・ 小学校の教育課程は6年間と長いので学校教育目標の目指す子供の姿に向かって段階的に育ててもらいたい。(宮澤委員)

協議の結果、全員意義なくこれを承認した。

(4) 学校運営協議会の自己評価について

議長から学校運営協議会自己評価表(評価項目1~4)について事前に各委員から提出していただいた意見を基に協議会の総意としてまとめていきたいと説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ かなさし発見ポイントウォークの活動を通じて、重点項目である家庭・地域と連携した教育を推進する中で、地域の「ひと・もの・こと」を授業や学校行事に活用することができた。家庭と地域の連携をする思いが共有できたと思う。

(宮澤委員)

- ・ 「学校運営協議会＝ポイントワーク」とならないようにする。(内山委員)
- ・ 図工科や家庭科等の授業補助についても、地域・保護者と協働できることを模索していきたい。(飯田委員)
- ・ 地域との連携について、保護者や老人クラブ、カタロウ会等の団体に協力してもらっている。しかし、地域住民はコミュニティ・スクールの活動について知らない人が多い。来年度は、地域の方に理解と協力をしてもらうためにどのような方法で周知していくのか課題となる。(宮澤委員)
- ・ 学校から具体的な学習支援の内容や日時を一覧にしてもらうと人材を探すことに協力しやすくなる。(黒瀬委員)
- ・ 第2回学校運営協議会では、地域の人や団体を教えていただいた。子供たちが学習を進めていく中では、突発的に学習支援ボランティアが必要になる場合もある。働いている人が多いため、やりたいと思ったときにタイムリーに依頼できる人を知りたい。(教頭)
- ・ リストアップした人の中で依頼をしたい場合は、委員を介して学校と地域のパイプ役となり、活動が実現しやすいように根回していく。(青嶋委員)

司会から、来年度第1回会議は、令和6年5月7日(金)午後3時から開催する旨の報告があった。